

令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ②子どもの権利条約

- ◆ 子どもの権利について深く考えることができました。ルールがある中で子どもたちの反対意見を取り入れることはとても難しいですが、子どもと大人が意見を伝え合う場を大切にしていくことで、互いの思いを共有していけるのはとても素敵なことだと思います。大人が決めた子どもたちのためのルールであっても、これからの関わりの中で、子どもたちの声をしっかり聞くことを大切にしていきたいです。
- ◆ 今回の研修を受講し、日本人は他の国の子どもたちよりも自己肯定感や社会参画に関する意識が圧倒的に低いということが分かりました。自分自身もなかなか自信をもてなかったり、マイナスの事を考える時間が多かったりします。子どもたちと接する仕事をするにあたり、子どもたちの自己肯定感や自己効力感、自己有用感を高められるように工夫していきたいと思います。子どもたちと話し合いながら、楽しい空間をつくってきたいです。
- ◆ 子どもたち自身が自分たちのもつ権利を知り、学び、大人が子どもたちの声に耳を傾けるが必要と感じました。学童で室内での共同生活や外遊びでのルール等の約束事がありますが、子どもたちと話し合う場を設けて意見を取り入れるなどして、自身に責任感をもたせ、トラブル回避に繋げていきたいです。また、日頃から子どもと向き合う中で褒めることを意識し、自己肯定感を育む手助けができるよう心がけたいです。
- ◆ 今回佐藤先生の講義を拝聴し、改めて子どもたちと普段から相談や話し合いをしながら、子どもたちの主体性や共同性を大切にしながら児童クラブ運営をしていくことが、子どもたちの人権や権利を尊重した取り組みになっていくのだと学ぶことができました。様々な放課後児童クラブがある中で、施設運営のために「特色ある取り組み」にベクトルを向けるような形となった場合、施設（大人）主体の取り組みに偏りがちになる恐れがあると気付くことができたように思います。様々な場面で子どもたちが主体性をもって取り組めるように皆で考えたり、ルールを考えたり等のやりとりを大切にしていけるような施設運営を行っていききたいと思います。
- ◆ 条約と聞くと難しい印象でしたが、映像で見るととても分かりやすかったです。日本で子どもたちが自分で物事を決めていくためには、幼児期からの生活の仕方が大きく影響するので、なかなか難しいと感じました。自分の意見が認められるのは、子どもにとって良いことだと思うので、学童でも大人と子どもたちで意見を出し合える場を設け、自分たちで決めた経験をさせてあげたいなと感じました。